一本橋やスラローム、自転車で楽しく遊ぼう！

今乗っている自転車で、
だれでも参加できるよ！

楽しみながら自転車が上手くなる！

Wielerschool Japan
Cycling school for kids
ひとりでも多くの子どもに、自転車に乗る楽しみを。

Cyclingschool.jp

日本でいちばん楽しい自転車教室がやってくる！

ウィーラースクール

ひとりでも多くの子どもに、自転車に乗る楽しみを

～子どもたちへの自転車教育が未来を変える～

ヨーロッパ発の自転車教室「ウィーラースクールジャパン」の活動報告

はじめに：ウィーラースクールジャパン概要

実例紹介

1. 京都府南丹市美山町：自然体験と自転車のコラボレーション
2. 神奈川県藤沢市：行政と密接に連携したスクール
3. 栃木県宇都宮市：プロスポーツチームによる社会貢献

http://cyclingschool.jp/

はじめに

ウィーラースクールジャパンとは？

ウィーラースクールジャパンは、「ひとりでも多くの子どもに、自転車に乗る楽しみを」をスローガンに、全国で子ども向け自転車スクールを運営、開催している『自転車愛好家たち』による有志のグループです。現在、約 80 名がスタッフとして登録しています。その活動は、2003 年。当時ベルギー及びフランドル地方自転車連盟の子ども向けカリキュラムをベースに神戸で行われた自転車競技イベント内で開催されたスクールに端を発します。
2007 年 4 月以降、子ども向け自転車教育カリキュラムのパッケージ化により、様々なイベントや学校での授業の一環として、また地域の自転車教育の受け皿として全国にその活動の輪が広がっています。 ※ウィーラー：ベルギーのフラマン語で「サイクリング」の意

自転車教室の内容

ウィーラースクールジャパンの基本カリキュラムは、

1. **交通ルールとマナーを学ぶ**
2. **自転車という道具のしくみを学ぶ**
3. **乗車テクニックを学ぶ**
4. **自転車の楽しみを学ぶ**

という大きな柱で構成されます。
子どもたちにとって、ただ単に知識だけを学ぶのではなく、自転車にまつわる様々な事を同時に学び、体験し、「自転車に乗る、本当の楽しみ」を感じることで、「社会の中での自転車の位置づけ」をしっかり認識することが大切であると考えているからです。

ウィーラースクールで学ぶ子どもたちは、補助輪を外す小さな子から、普通に自転車に乗る子どもたち、自転車競技者を目指す本格的なスポーツバイクに乗る子どもたちまで様々です。わたしたちのカリキュラムには、それぞれのレベルやモチベーションに応じて、「自転車の楽しさ」「自分の可能性」を発見できるカリキュラムが用意されています。

子どもたちを取り巻く環境

最近、自転車が関係する交通事故数が一気に増加し社会問題にもなっています。これは正しい交通ルールやマナーなどが自転車を利用するほとんどの人に浸透していないことにも大きな要因があります。
ウィーラースクールでは、カリキュラムの中で、正しい交通ルールやマナーを教えていくとともに、自転車は楽しい！という気持ちになるための様々な工夫を凝らしています。
自転車教室を通じて「自転車で自然の中を走ることの楽しさ」や、「自分自身の可能性」、「道路をみんなでシェア（共有）する意識」などを育ませることが、子どもたちを重大な交通事故から守ることに繋がると信じています。

「第三の動き」～地域が守る子どもたちの未来

ウィーラースクールジャパンは数年来、子どもたちへの自転車教育のニーズの高まりを受けるなかで活動範囲を全国に広げています。この活動は毎年多くの理解者を生み出し、わたしたちだけでなくこのカリキュラムを実践する多くのグループや団体などをあわせると、毎年、約 50 ヶ所以上、年間にのべ 5,000 人を越えるであろう子どもたちを対象にスクールを開催する実績を持つに至りました。
わたしたちはこのような活動を自転車業界や、競技界とは一線を画した「第三の動き」としてとらえています。それは、自転車を愛好するサイクリストたちが自分たちで出来る範囲で、自転車を取り巻く環境を自らの手で作り上げていこうという「草の根の活動の広がり」こそが、本当の意味での「自転車文化」を作り上げる原動力になりうるものだと信じているからです。
わたしたちは、これまでこうした活動を持続的なものにするためにどうしたらよいのかを常に考えてきました。結果、安全に楽しく自転車に乗るための基本的な技術を教えるために、大きな組織や資金が必要では、かえってその活動が継続しない上に、効果的に広がらないという結論に達しました。
「地域の子どもたちのことは地域が見守る」という小さな気持ちや動きの集積こそが、大きな負担を減らし、息長く子どもたちのサポートが出来ると考えたからです。実際、ウィーラースクールジャパンは、大きな資金や組織に頼らず、それぞれのメンバーが工夫を凝らしお互いに負担を軽減しながら継続しています。

楽しさを知った子どもたちの将来

子どもたちは素直です。
そして楽しいことには、一生懸命取り組みます。
そして、その楽しさを忘れません。

自転車に乗ってその楽しさ、そして実際に道路を走って感じた様々な問題意識は、受講した子どもたちに大きな変化をもたらします。例えば、ヘルメットを被る重要性、道路上での無茶な運転がいけないことなど、講義やサイクリングなどを通じて彼らはしっかりと吸収し理解します。

自転車は乗れば乗るほど上手くなる乗りものです。しっかりと練習を積んだ子どもたちは、いざというときに危険を回避する技術が身につきます。

「感情」、「知識」、「技術」

この三点を自転車を通じてしっかり学ぶことで、子どもたちの自転車乗車中の安全が飛躍的に向上します。そしてなにより大切な**「道路はシェア（共有）するもの」**という意識が彼らの中に生まれてくるのです。これが結果的に将来の優良ドライバーや優良サイクリスト、環境意識の高い市民を生み出すことになり、ひいては自転車を軸とした社会環境の整備につながると考えています。そのためにも、子どもたちには、自転車で思い切り遊べる環境が必要なのですが、昨今の事情を考えれば、子どもたちが自由に自転車を楽しめる場所が社会からほとんど無くなっているのが実情です。だからこそ、スクールのような**「自転車を楽しめる機会の創出」**が本当に大切であり、それは今の社会から子どもたちの自由な空間を奪ってしまった**大人たちの責任で**もあると考えます。

ウィーラースクールジャパンは 10 年先の未来を見据え、生活の中に根ざした「自転車文化」のための一助となるよう全国でスクールを開催し、ひとりでも多くの子ども達に自転車の楽しみを知ってもらえるよう活動しています。

お問い合わせ

ウィーラースクールジャパン事務局
京都府南丹市美山町和泉小橋ノ本 19
TEL. 0771-75-5055

実例紹介

京都府南丹市美山町：自然体験と自転車のコラボレーション

南丹市、南丹市教育委員会などとの連携

■ スクールの意図や目的・目指すべきゴール

京都府南丹市美山町は、かやぶきの里として、築 100 年以上経過したかやぶきの古民家が多く現存する町として知られている、京都市内から約 50 キロ北部に位置する山間の観光地です。しかしながら最近では、高齢化が進み人口の流出により限界集落に向かって突き進んでいます。

そんな町を自転車を使って元気に出来ないか、そしてこの町が存続することによって、サイクリングに適した豊かな景観を保護することにならないかという意図から、美山町における自転車を基軸にした複合的な活動がはじまりました。そのベースとなるのが、美山町で地元のサイクリングクラブが主体となって開催する「ウィーラースクール in 美山」です。

数が少なくなった地元の子どもたちに、安全に自転車に乗る知識や技術を学んでもらうとともに、地元を自転車で走ることで地域への愛着を喚起させる。そしてこのスクールを切っ掛けに、町外（それも他府県）からやってくる子どもたちとの交流の場として、自転車教室はその核となる役割を果たすことを目的としています。

美山町ではこのほかに、年に 2 回、1,000 人規模の大きなサイクリングイベントや、季節毎に開催する大人向けのスクールイベントなども積極的に開催しています。

これらは、ウィーラースクールのスタッフが中心となった「美山自転車の聖地プロジェクト」として、地域振興の大きな柱として運営され、そのベースに「ウィーラースクールジャパン」のカリキュラムや理念が活かされています。

こうした活動は、地域活力の向上ならびに、最終的には、U ターン、I ターン者の増加、そして子どもの数を増やすことを目指しています。

■ 協働事業の概要および期間

2010 年より毎年、年間 10 回程度開催し（'05 年から開催実績があるが当初は年２回程度の開催）各回とも平均 40 名ほどの子どもとその保護者が参加します。

遠方から美山のスクールに訪れた子どもたちには、サイクリングだけでなく農家体験などの自然体験プログラムも組み込み、奥行きのあるスクールを開催しています。

美山町はウィーラースクールジャパンの本部があることから、レンタサイクルなどの機材も充実し、多くの子どもたちがスポーツタイプをはじめとした様々な自転車を体験することができます。また、遠方より参加で自転車の搬送が困難な子どもや保護者の方にも、気軽に体験していただける体制を整えています。
管理場所や人材等の問題はありますが、レンタルできる自転車やヘルメットは、こうしたスクールを開催するにあたり非常に重要な要素となります。

所有台数	ペダル無し自転車：10 台以上 16 インチ自転車：5 台以上 20 インチ自転車：20 台以上 22 インチ自転車：4 台以上 24 インチ自転車：20 台以上	レンタルヘルメット：60 個以上 レンタル手袋：適宜

■ スクール活動実施によって感じられる効果など

自転車で活動する範囲が広がった子が多いように見受けられます。
町内外の子どもの交流が広がったことにより、子どもたちの視野も広がりました。
都会の子たちには、田舎の自然環境を堪能したり、そこに住む人々のことを理解出来るようになったと感じます。

■ 代表者の感想や意見など

美山町でのこうした取り組みは、全国の疲弊した田舎町においての様々な問題解決をめざす打開策となると感じます。
交通環境における究極の安全とは、「子どもが安全安心に自転車で道路を走れる」ことであり、それは地域住民、その道を利用するすべての交通の後ろ盾がないと実現しません。
都会では大きすぎて見えない部分が、こうした地方の町であればその問題点と解決方法の実践や結果がはっきり見えやすいため、この町の取り組みは大きな意味を持つと思います。

美山町は交通量が少ないという利点を活かして、公道を使ったサイクリングを大きな柱にしている。

（上）地域の小学校の安全教室

（左）公道を走る知識と技術がついた子どもたちには地域の自然を活かしたサイクリングを体験させる

（下）本格的な技術講習の後は希望者を募って農家体験なども行う

実例紹介

神奈川県藤沢市：行政と密接に連携したスクール

公益財団法人藤沢市みらい創造財団スポーツ事業課　秋葉台運動公園事務所との連携

■ スクールの意図や目的・目指すべきゴール

藤沢市出身のプロロード選手、山本雅道選手が地元の子供たちに向けてスポーツ自転車に親しめるスクールを開催したいという思いから始まった、子供向け自転車スクールサイクルチャレンジ藤沢を 2007 年より継続開催。その後、サイクルオープンデイという２つのイベントを開催しています。

サイクルオープンデイは、藤沢市秋葉台運動施設の広い駐車場を使って、子ども達のための自転車の練習場所にしています。一本橋、スラローム、周回走行などのカリキュラムに加え、レベルに応じてより高度なテクニックを学べる、毎月（7 月、8 月を除く）開催の自転車スクールです。また補助輪外しの指導も積極的に行い、毎回、数名の子供たちの補助輪を外しています。

ふだん町なかでは交通安全に気を遣いながらしか走らせることのできない自転車を、思い切り走らせ、楽しむことが出来る場を提供すること。また、毎月開催であることを活かし、自転車で楽しむ親子の交流の場としても利用されています。

■ 協働事業の概要および期間

サイクルチャレンジ藤沢：毎年 11 月 23 日に 100 名程度が参加（現在 8 回開催）
事前申し込み必要
サイクルオープンデイ：7、8 月を除く毎月 1 回開催
　　自由参加（申し込み不要）
　　参加費：無料（但し保険料として 100 円）
　　毎回 90 ～ 120 名が参加
　　開催実績：
　　2011 年度：10 回開催（約 50 名／回）
　　2012 年度：10 回開催（約 60 名／回）
　　2013 年度：10 回開催（約 70 名／回）
　　2014 年度：10 回開催（約 90 名／回）
　　2015 年度：3 回開催（約 100 名／回）

当スクールでは後述のようにレンタル自転車を多数用意しているため、普段乗っている自転車と違う自転車でも練習が行えることが魅力となっています。

藤沢会場で使用するレンタサイクル

ペダル無し自転車：10 台
補助輪外し用自転車：6 台
12 インチスポーツ自転車：4 台
14 インチスポーツ自転車：4 台
24 インチロードバイク：8 台

これらの機材（ペダル無し自転車除く）は、ウィラースクールより財団に貸与し活用頂いている。

■ スクール活動実施によって感じられる効果など

スクール活動を始めた当初は、自転車趣味を持つ親が子供に教える目的で参加しているケースが多かったのですが、次第に未就学児童が中心となり、自転車に乗れない子供たちが楽しむ場所になってきました。しかしここ数年は、本格的なスポーツ自転車で参加する子供も増えスポーツとしての自転車の楽しみ方が浸透していることを実感しています。今秋からは、親子サイクリングデイとして、活動の場をクローズな会場から公道にも広げ、周辺交通の中でも安全に乗る方法を学べるスクールにしていく予定です。

■ 代表者の感想や意見など

山本雅道（藤沢市出身プロロード選手）

昨今、子供が自転車を安全に思いきり乗る場所が減ってきています。スクールを行う最初の思いは、今の子供たちに、思いっきり自転車を乗っていい場所を提供したかったということ。そして、そこで自転車に乗ることをうまくなって欲しかったということでした。
危ないからスピード出しちゃダメ。そっちに行ったら危ないからダメ…。
世の中なんでもダメなことばかりでは、自転車の乗車技術は上がらない。
それならば、車の来ない安全な場所を提供して、さまざまなカリキュラムを経験させることができれば、まっすぐ走ったり、しっかり止まったりという基本操作を含めた技術が向上するのではないかと考え、実際に多くの子どもが驚くほど技術が向上しています。
藤沢で行う本スクールの目指すべきゴールは、まずは自転車になれてもらい、乗り方がうまくなること＝とっさに何か起きたときの回避の仕方が身につくという、いわば「自己防衛」の技術向上からはじまり、結果、事故が減り自転車を利用する子どもたちのそれに対する理解が深まること。ひいてはそれが２０年後その子たちが大人になり車を運転するようになってからの交通社会そのものへの意識変革だと思います。
そして、この場所にきたら自転車で楽しい思いができるという、地域の子どもたちが自然と集まるよりどころとしての「場」の構築です。

事務局より

藤沢で定期的に開催している本スクールは、会場となっている藤沢市みらい創造財団からの大きな理解と協力があり、自治体とボランティアスクールが連携する自転車スクールとして希有な成功例であると考えます。ウィラースクールジャパンがモデルとしている欧州では、子供向けの自転車教室は社会が責任を持って行うものとしてとらえられています。そして自治体が積極的にこれらの活動に投資することで、子供たちの安全を確保するとともに自転車コミュニティの形成に一役買っている現状があります。最近は、地域振興のひとつとして大人向けのサイクリングイベントは盛んに開催されているが、それだけではなく子供たちが安全に自転車に乗れるようなスクールの開催や仕組みづくりに注力していきたい。

＜WEB サイト＞

ウィーラースクール藤沢

https://sites.google.com/site/wsjfujisawa/

実例紹介

栃木県宇都宮市：プロスポーツチームによる社会貢献

・宇都宮市役所教育委員会からのウィーラースクール依頼
・宇都宮市役所生活安心課と宇都宮市内の小学校、中学校、高校と自転車安全教室の共同開催

■ スクールの意図や目的・目指すべきゴール

宇都宮ブリッツェンが目指す社会

自転車は健康で環境にも良い乗り物。それがごく当たり前に言われる時代となり、自転車が様々な生活シーンにおいて、多くの注目を集めるようになっています。

では、本当に自転車が地域の方々にとって根付いている社会とは、どのような姿なのでしょうか。

私たち、宇都宮ブリッツェンでは、日本で初めての地域密着型プロロードレースチームとして、全国を転戦するレース活動に加え、自転車安全教室やサイクルイベントの開催など、宇都宮が、そして栃木県が自転車で元気になる活動に取り組んでいます。

私たちの活動は、単なる地域貢献活動にとどまらず、将来の社会を担う子どもたちの命と安全を守る活動や、車社会特有の交通事故といった社会的課題の解決に資する活動にも取り組んでいます。

これらの活動はとても地道な活動ですが、着実に確実に、これらの活動を通して「自転車文化」を育んでまいりたいと考えております。

これからも、子どもたちが安心して楽しく自転車が乗れるまち、自転車で生きがいを持てるまち、自転車で人と人とがつながり、自転車が文化として息づくまち。そんな楽しい社会を宇都宮ブリッツェンは目指してまいります。

■ 協働事業の概要および期間

毎月２回～４回

年　度	開催回数	受講者数
2009	5 回	1,360 人
2010	16 回	3,205 人
2011	26 回	7,084 人
2012	23 回	5,810 人
2013	20 回	4,781 人
2014	20 回	8,204 人
累計	111 回	

☆2009 年～2014 までの総受講者数 30,444 人

■ スクール活動実施によって感じられる効果など
ヘルメットを着用する子供達があきらかに増えています。また路側帯の左側通行も以前よりは少なくなっている様に感じます。とは言え、まだまだ交通ルールを守らない方を目にする機会も少なくないので、引き続き、自転車安全教室を継続して行きながら、交通ルールを厳守する意識向上を広げてまいります。

■ 代表者の感想や意見など
私たちの活動が子供達の命を守れているか、実際には直接感じられる事はほとんどありません。ただ、子供達が私たちの教えを意識し、知らぬ間に命が守られているとすれば、それはとても素敵な事だと思います。
レースやビジネスと違って、こうした教育に結果や評価や対価が有る訳ではありませんが、私たちが自転車という世界に関わり続けていく以上、社会的意義のあるものとして永遠に続けていくべき活動だと思っています。

＜WEB サイト＞
宇都宮ブリッツェン
http://www.blitzen.co.jp/

宇都宮市内の幼稚園で自転車安全教室を実施。まずは紙芝居を使って解り易く交通ルールを説明。

プロの自転車選手が園児達を直接指導します。ブリッツェンのマスコットキャラクターも駆けつけ、楽しみながらも真剣に自転車教室は進んで行きます。

人気アニメ『弱虫ペダル』とコラボレーションした『弱虫ペダル × ブリッツェン自転車安全教室』を開催中。